

公益社団法人日本地球惑星科学連合
第 27 回学協会長会議議事録

開催日時 : 2022 年 11 月 29 日(月) 13:30 - 14:25

開催場所 : オンライン開催

出席者 :

[学協会] 巖 網林(議長、一般社団法人地理情報システム学会 会長), 平坂 勝也(一般社団法人日本宇宙生物科学会 庶務幹事), 長田 昌彦(一般社団法人 日本応用地質学会 会長), 前田 眞治(一般社団法人日本温泉科学会 会長), 神田 穰太(日本海洋学会 会長), 藤田 英輔(特定非営利活動法人日本火山学会 会長), 山口 喜博(形の科学会 会長), 橋田 俊彦(公益社団法人 日本気象学会 副理事長), 大和田 正明(一般社団法人 日本鉱物科学会 会長), 井上 徹(一般社団法人 日本鉱物科学会 副会長), 生形 貴男(日本古生物学会 会長代理), 森尾 貴広(日本沙漠学会 会長), 大竹 翼(資源地質学会 行事委員長), 小原 一成(公益社団法人日本地震学会 会長), 多々納 裕一(日本自然災害学会 副会長), 小池 克明(日本情報地質学会 会長), 利部 慎(日本水文科学会 連絡員), 山崎 大(一般社団法人水文・水資源学会 理事・JpGU 対応委員長), 井田 茂(生命の起原および進化学会 副会長), 小寺 保彦(石油技術協会 会長), 西村 浩一(公益社団法人 日本雪氷学会 会長), 田部井 隆雄(日本測地学会 会長), 金谷 有剛(日本大気化学会 会長), 長門 研吉(日本大気電気学会 会長), 池原 研(日本堆積学会 会長), 鈴木 毅彦(日本第四紀学会 会長), 伊藤 孝(日本地学教育学会 副会長), 小荒井衛(地学団体研究会 会長), 徳永 朋祥(公益社団法人日本地下水学会 会長), 南 雅代(一般社団法人日本地球化学会 会長), 山本 正伸(地球環境史学会 会長), 山本 衛(地球電磁気・地球惑星圏学会 (SGEPSS) 会長), 小玉 芳敬(一般社団法人日本地形学連合 会長), 中澤 努(一般社団法人日本地質学会 常務理事), 熊木 洋太(日本地図学会 会長), 藤光 康宏(日本地熱学会 会長), 友澤 和夫(地理科学学会 会長), 小口 高(公益社団法人日本地理学会 会長), 荒井 正剛(日本地理教育学会 副会長), 長谷部 徳子(公益社団法人東京地学協会 渉外委員), 関根 良平(東北地理学会 幹事長), 取出 伸夫(土壌物理学学会 会長), 日比野 俊行(一般社団法人日本粘土学会 副会長), 平野 高司(日本農業気象学会 会長), 鈴木 敬一(公益社団法人物理探査学会 会長), 奈良岡 浩(一般社団法人 日本有機地球化学会 会長), 鈴木 啓助(陸水物理学学会 会長), 若林 裕之(一般社団法人 日本リモートセンシング学会 会長), 中村 昭子(日本惑星科学会 会長),

[日本学術会議 地球惑星科学委員会]

田近 英一 (委員長), 三枝 信子(幹事), 春山成子(幹事), 沖 大幹(委員),

[日本地球惑星科学連合]

高橋 幸弘(会長), 田近 英一 (前会長), 小口 千明(副会長), 河宮 未知夫(副会長), 堀 利栄(副会長), 阿部 なつ江(理事), 沖 大幹(理事), 川幡 穂高(理事), 長谷川 直子(理事), 福山 蘭

子(理事), 和田 浩二(理事)
(敬称略)

議事に先立ち、出席者の確認と自己紹介を行った。

1. 前回議事録確認

前回国議議事録を確認した

2. 日本地球惑星科学連合活動報告

高橋会長から、日本地球惑星科学連合の活動報告があった。

(1) 大会報告

和田理事より 2023 年大会準備状況の報告があった。2022 年大会を踏襲したハイブリッド方式を予定している。現地会場は幕張メッセを予定している。

2022 年大会との違いはオンラインポスターの開催日程である。2022 年大会ではオンラインポスターセッションを現地開催期間の翌週に開催したが、2023 年大会では同期間に開催する。原則として、口頭発表とは別の日に、他の口頭セッション・ポスターセッションと並行して開催する。また、口頭セッションにおいてポスター発表のフラッシュトークを実施していただく。

口頭発表は、現地発表かオンライン発表かを選択することができる。

ポスター発表は、資料を Confit 上に掲示することが必須要件となる。現地発表とオンラインポスターセッションでの発表はいずれも任意である。オンラインポスター発表を行う場合は、セッションごとに指定された時間帯においてビデオ会議システム内の指定の場所で発表をしていただく。

2023 年大会においても COVID19 感染拡大防止に努め、拡大状況によってはオンラインのみの開催に移行する場合がある。

大会までのスケジュールが紹介された。11 月 2 日にセッション提案を締切った。231 セッションの提案があった。現在プログラム編成期間であり、12 月 9 日に開催セッションを一般に公開する。コマ割りの一般公開は 12 月 19 日を予定している。

現在までに確定した学協会との共催セッションの紹介があった。

(2) ジャーナル関連報告

川幡理事よりジャーナル関連の報告があった。

PEPS の出版状況について報告があった。投稿・編集・出版は順調に推移している。学協会の皆様にも引き続き質の高い論文の投稿をお願いしたい。2021 年は Impact Factor 3.875、CiteScore 6.4 を得た。PEPS は JpGU のみではなく参加学協会との共同の学術誌であることがあらためて紹介された。

(3) 顕彰関連報告

川幡理事よりジャーナル顕彰関連の報告があった。

JpGU フェローと西田賞の候補を募集中である。締め切りはそれぞれ 12 月 20 日、12 月 15 日で、締め切り以降の応募は受け付けないためご注意をお願いしたい。

3. 日本学術会議の近況報告

田近委員長に代わり、三枝幹事より報告があった。

- (1) 第 25 期地球惑星科学委員会のメンバー、組織図の紹介があった。
- (2) 各分科会の活動報告があった。
- (3) 未来の学術振興構想について、背景と目的や公募要領、策定プロセスについて紹介があった。現在公募期間中であり、12 月 16 日が締切である。
- (4) 第 26-27 期会員及び連携会員の選考対象者の情報提供について、日本学術会議から協力学術団体に向けて依頼があった旨、報告があった。要領や募集フォームのイメージが紹介された。
- (5) 国際基礎科学年(IYBSSD)関連イベント『私たちの地球はどんな惑星か—科学を混ぜて地球を探る』を 11 月 5 日に開催した旨の報告があった。
- (6) JpGU2023 年大会ユニオンセッションとして「持続可能な発展のための国際基礎科学年と地球惑星科学の貢献」を提案したことについて報告があった。

4. 幹事会の開催報告

議長より 11 月 16 日に幹事会を開催し情報交換を行った旨報告があった。JpGU への今後の期待などについて自由に意見交換と情報交換を行った。

学協会から意見や要望があれば幹事会にお寄せいただきたい。

高橋会長から、コミュニティを束ねて日本学術会議の窓口の役目を担う JpGU の成り立ちがあらためて紹介され、学協会の厳しい状況を手助けし、世界の中で存在感を維持し発展させる場所として JpGU を活用してほしいという意見が述べられた。

学協会に対するサポートの例として、学会事務局機能を担う案が示された。学会事務局の委託先の維持確保や IT 化への対応に困難が生じているという声があったことが紹介され、実情を調査するためにアンケート調査を準備しているという報告があった。

議長よりアンケート中で予算条件についても尋ねるのがよいのではないかという提案があり、自由記述にて求めることとなった。

アンケートフォームについてはあらためて学協会に共有される予定である。

以上。